

「21世紀COEプログラム」(平成15年度採択)中間評価結果

機関名	首都大学東京	拠点番号	H17
申請分野	機械・土木・建築・その他工学		
拠点プログラム名称 (英訳名)	巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成 (Development of Technologies for Activation and Renewal of Building Stocks in Megalopolis)		
研究分野及びキーワード	〈研究分野:建築工学〉(ストック活用・更新)(都市・建築)(多様性)(調和工学)(建築マネジメント)		
専攻等名	建築学専攻・都市科学専攻		
事業推進担当者	(拠点リーダー名) 深尾 精一 教授 他 18名		

◇拠点形成の目的、必要性・重要性等：大学からの報告書(平成17年4月現在)を抜粋

<p><本拠点がカバーする学問分野について> 本拠点がカバーする学問分野は総合学としての建築工学である。特に、巨大都市建築ストックの賦活・更新技術の育成に焦点を当て、建築工学の細分野から抽出される関連技術を統合した、メタ技術の枠組みを構築することを目指しており、建築工学の各専門領域における建築ストック活用に関連する分野を横断的にカバーする。また、将来的には、都市社会学など学際的な分野との連携を図る。</p>
<p><本拠点の目的> 20世紀後半に蓄積された膨大かつ多様な建築ストックを有効に活用してゆくことが世界的に求められている。本拠点は、多種の建築ストックを有する最も典型的な都市である東京に立地する拠点として、具体的なストックの活用および更新に関し、実際のプロジェクトと連動させた「プロジェクト実施連携研究」を行い、普遍性の高い建築ストックの賦活・更新技術の枠組みを構築するとともに、広い視野と高度な専門性を有する人材を育成することを目的とする。</p>
<p><計画：当初目的に対する進捗状況等> 「団地型公共集合住宅の総合改善」、「都心部非居住施設の活性化およびコンバージョン」、「ニュータウン公益施設の再調整」を柱とする、研究と教育が一体となった約30のプロジェクト研究を遂行しており、具体的な設計提案を行っている。また、関連する要素技術に関する実験研究も進めている。それらの成果は、平成15年度成果報告会、国際ワークショップ「都市建築ストックの賦活・更新」において発信するとともに、国内外での論文発表等で公表している。また、各プロジェクトには博士課程等若手研究者が積極的に参画しており、高い実践性と専門性を有する人材が着実に育成されている。</p>
<p><本拠点の特色> 本拠点は、建築ストック活用に関する具体的なプロジェクトと連携した研究を推進することにより、真に実践的かつ総合的な建築工学の研究手法を構築する点に特色がある。また、実践的なプロジェクトへの参画により、深い専門的能力とともに広い視野と調整能力をもつ実務家を養成する点に特徴がある。</p>
<p><本拠点のCOEとしての重要性・発展性> 20世紀後半に我が国が蓄積した質が多様で大量な都市建築ストックを賦活・更新する技術とそれを担う人材の育成は極めて重要性・緊急性が高い。従来のような標準解でなく、普遍性のある個別解を求める課題であり、各専門分野が有機的に連携し、成果をフィードバックしつつ発展させることが重要である。世界都市間の競争の時代においては、都市・建築を、安全かつ快適で美しく持続可能型社会に相応しい形に変容させる新たな工学像を構築することが急務であり、本拠点の成果は高い発展性を有する。</p>
<p><本プログラム終了後に期待される研究・教育の成果> プロジェクト実施連携研究の成果として、都市建築ストックの賦活・更新に関わる、様々な技術が開発され、その蓄積が整理されて国内外で広く活用、展開される。技術情報に関する国際的なネットワークも構築され、日本における情報センターとしての役割を果たすことになる。さらに、都市建築ストックの賦活・更新のためのメタ技術体系として、新たな建築工学の枠組みが提案される。また、実践的な経験と関連専門分野の深い学識を有する人材が、教育・研究分野と実務分野の双方に送り出される。</p>
<p><本拠点における学術的・社会的意義等> 建築工学は、従来から総合学であると言われてきたが、近年の傾向として特化型研究が増えてきており、大学における研究が実際の建築行為と乖離していると指摘されている。本拠点では、ストック活用の最先端を行くプロジェクトを実践的に推進することにより、真に総合的な建築工学の枠組みを再構築することになり学術的な意味が極めて高い。また、プロジェクト実施にあたり、実社会と協働しつつ成果をあげ、高度専門実務家を養成するため、社会的な貢献度も高い。</p>

◇21世紀COEプログラム委員会における評価

<p>(総括評価) 当初目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要と判断される。</p>
<p>(コメント) その現代的なテーマと応用指向の強い研究プログラムという点から、その成果は世界的にも関心が高いと思われる。30件のプロジェクトが同時並行的に順調に進行していることは評価できるが、現在のところ、それぞれのプロジェクトの有機的連携という点では十分とは言えない。都市建築時空間多様性調和工学のより具体的な形を示す努力が必要である。 また本COE採択時に指摘した工学以外との連携について現在のところ手つかずの状態であるが、本プログラムの性格上不可欠と思われるので、早急に対応すべきである。 すなわち研究活動のみならず、人材育成という点で工学と人文社会科学のダブルメジャー化をより推進し、かつ国際的な人材輩出の機会を増やすべきと思われる。具体的にはデザイン教育のプログラム開発についても今後十分に検討し、本COEの人材育成面での成果を上げて欲しい。</p>